

# 文京区立第九中学校 校長室通信

## 「文京九中 ここにあり」



平成30年度 第3号  
平成30年7月17日発行



文京区立第九中学校 校長 小 椋 孝  
■ TEL 03-3821-7178 ■ FAX 03-5685-4955  
■ HP <http://www.bunkyo-tyky.ed.jp/daikyu-jh/>

### 夏季休業日から第2期「学校快適化工事」が実施されます

文京区教育委員会では、築30年以上が経過した学校の内装劣化等に対応するため、学校快適化工事を実施しています。本校においても昨年度の普通教室床面・壁面の更新、ロッカーの新設、照明のLED化、黒板のホワイトボード化、東側トイレの洋式化工事に引き続いて、今年度は第2期工事として廊下・階段・昇降口の内装工事及び西側トイレの洋式化工事が実施されます。廊下・階段・昇降口の工事は、夏季休業期間中に終了する予定ですが、西側トイレは4階が9月中旬、3階から1階は11月下旬までに順次完成する予定となっています。工事に伴い、7月14日（土）から11月下旬まで校庭の東側3分の1のスペースが工事車両・資材置き場として使用されることとなります。部活動をはじめ、様々な面で不便をお掛けしますが、ご理解、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

快適化工事によって内装  
が更新された廊下・階段  
の例（第一中学校）



### 今年も「オリンピック・パラリンピック教育アワード校」の顕彰を受けました

東京都教育委員会は、都内全公立学校・園の中で優れたオリンピック・パラリンピック教育を行っている学校・園をオリンピック・パラリンピック教育アワード校として決定し、表彰していますが、昨年度に引き続き、今年度も本校が顕彰校として選出されました。今後とも特色ある教育活動の一環として、取組を推進してまいります。



東京都教育委員会から贈  
呈されたオリンピック・  
パラリンピック教育ア  
ワード校の「表彰状」及  
び「顕彰記念認定証」

### 九中の特色！「新聞への意見文」投稿 ～ 3月から7月までのものを紹介します ～

本校では、国語の発展的な学習として文章をまとめる力を育成することや若者の意見発表のよい機会として、新聞の投書欄への投稿を勧めています。今年度も、行事や学校生活への思い、日頃感じていることなどを投稿し、多くの意見文が新聞各紙に掲載されています。自分自身の考えを明確にして発信することは、自ら考え、判断し、行動する力の基盤となります。短い文章の中に、物事を正しくとらえた上で、感じたことや意見を表すことは、大人でも大変なことですが、掲載された文は、これらのことをしっかりと自分自身の言葉で表しています。これまでに紹介していないものを次頁以降に掲載しましたので、ぜひ保護者、地域の皆様にもご一読いただけましたらありがたいです。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成30年3月17日（土）掲載

## なぜ染めなければならない？

中学生 伊藤 龍花（13） [2年2組]

生まれつき髪の毛が茶色いのに、黒く染めるよう指導され不登校になったとして、女子高校生が訴訟を起こしたというニュースを見た。人間の肌の色や目の色、髪の毛の色はそれぞれ違うのだが、この学校は、日本人の髪の毛は黒いものだという何十年も前の考え方を、そのまま生徒に押し付けている感じがする。

私は米国に何度か滞在し、多くの人の肌、目、髪の毛の色が違うことを間近に見る経験をしてきたので、このような指導が今の日本で行われていることは、人権を無視していて悲しいことだと思った。日本は先進国の中でも人権への意識が低いと指摘されると聞いたが、このようなことをしているのでは仕方がないのではないかとも思った。

このことを知って、私は早く日本全国の学校が生徒一人一人の個性を大切に扱っていきようになり、髪の毛の色が違うだけではそれぞれの人の中身や本質は何も変わらない、ということをおもひに伝えていってほしいと思うようになった。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成30年4月26日（木）掲載

## 悔いのない中学校生活を送る

中学生 佐藤 椎（13） [2年1組]

私は、4月から中学2年生になりました。中学に入って、いろいろなことがあり、学び、成長しました。

入学してから友達の輪が広がり、あだ名をつけてもらったり、共通の趣味のことを話したり、一緒に遊びに行ったり、気づけば小学校の時と同じように楽しく過ごすことができました。

勉強も大切だけれど、友達を作るといことは人生の中でとても大切なことだと分かりました。

中学生になると部活や行事で忍耐力を多く求められます。今まで経験したことのないつらさに、何度も部活をやめたくなったこともありましたが、それを乗り越えることができました。この1年間は、私がこれから生きていくうえで大きな節目だったのではないかと思います。

2年生になって期待と不安で緊張している今、上級生を見習いながら。「自分の力を出し切れた悔いのない1年だった」と思えるように過ごしていきたいです。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成30年5月9日（水）掲載

## 頼もしい先輩になりたい

中学生 篠田 高大（14） [3年3組]

中学3年生になった。入学式がついこの間のように感じられる。

私たちが入学して初めて見たのは先輩方の背中だった。その背中は「私たちについて来い」と言わんばかりの頼もしさがあった。先輩の後に続くように過ごした2年間は、あっという間に過ぎ去った。気が付けば自分たちの後ろにはたくさんのお後輩たちがいる。

3年生になって、一番頑張りたいたいことは、学校の中心となって行事を引っ張り、成功へと導くことだ。また、お後輩たちに進むべき道を示し、素晴らしい伝統を残すことだと思う。私には、目標としてきた先輩がいた。常に先陣をきって行事を引っ張る先輩の姿は、私の目にとってもかっこよく映った。3年生となった今、2年生の時以上に意識を高め、責任をもって物事に取り組みたい。そして、お後輩たちの見本となれるような頼もしい先輩になりたい。

※ 東京新聞「若者の声」 平成30年5月24日（木）掲載

## 特急車両解体 もったいない

中学生 土屋 陽樹（14） [3年3組]

今春、特急スーパーあずさの車両が引退した。車両は廃車にするため、長野の車両基地に回送された。

帰省の際、解体を待つ車両を撮りに行って、ふと思った。なぜ、この車両は解体されるのか。他の特急車両には、だいたい第二の運用がある。長く使えるものなのだから、廃車にするのはもったいない。

故障したときの代用として残しておくこともできる。一代前のあずさがそうで、増発時や臨時列車に使われた。その車両は、ほぼ同時に引退し、長野の車両基地に並んでいた。

中央線の特急として一つの時代を築き上げてきた車両なだけに、もっとたくさん活躍をして、長生きしてほしい。

※ 東京新聞「ミラー」 平成30年5月5日（土）掲載

## 挫折乗り越え 夢を追う

中学生 伊井 直美（13） [2年3組]

私はゼロ歳のころから水泳をやっている。本格的に取り組み始めたのはちょうど2年前。それから1年半、ずっと自己ベストを更新し続けてきた。

しかし、だんだん練習に追いつけなくなり、昨年10月、トレーニング中に半月板損傷というけがをしてしまった。けがが治った後、練習が思い通りにいけなくなった。大会でも自己ベストがあまり出なくなった。気が付いたら、水泳が楽しくなくなっていた。

これが「挫折」なんだなと思った。私はずっとプロの水泳選手になることを夢に見ていた。だけどそれは、ただ自分で夢だと思おうとしているだけだったということに気が付いた。

3月にリレーの種目でジュニアオリンピックに出場し、決勝6位だった。初めてのジュニアオリンピックだったので、やはりメダルを取りたかった。悔しくてたまらなかった。

競泳の日本選手権で、出場した4種目を日本新記録で制した池江璃花子選手が以前、テレビでインタビューに答えていたのを見た。「きついときこそが楽しい。逆にあきらめようとは思わない」。

その言葉は、私の心に強く響いた。次の日の練習であきらめそうになったとき、その言葉が浮かんできて頑張ることができた。私はこの言葉を胸に、これからも練習を頑張り続けようと思決意した。そこで初めて、これが「夢」だと感じた。以前とは気持ちが全然違う。心から感じていることだと思った。ここからが夢への第一歩だ。このことを忘れずに、夢を追い続けようと思う。

※ 読売新聞「気流」 平成30年5月30日（水）掲載

## SNS 安全な利用を

中学生 田口 凜香（14） [3年1組]

スマートフォンが普及し、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）利用者が増え、多くの世代の人が楽しんでいる。実際、私も多くのSNSを利用している。あったことのない人とも会話ができ、近況をつぶやけば、「いいね」がもらえる。

しかし、この機能は一見楽しそうであっても、一歩間違えれば大変なことになる。「いいね」がほしくて散財してしまい、取り返しのつかないことになった人もいるという報道もあった。周りの目ばかり気にして、我を忘れてしまうのだろう。

いくら楽しくても、のめり込みすぎると大きな落とし穴に落ちてしまう。便利な世の中になった今、SNSの隠れた恐ろしさを考え、安全に利用できる人こそ、存分に楽しむことができるのだろう。

※ 東京新聞「ミラー」 平成30年5月31日（木）掲載

## 後輩との絆 築きたい

中学生 田尻 花音（13） [2年2組]

後輩ができる。小学校のように顔を合わせる程度、という関係ではなく、部活などで何度も会うことになる後輩だ。私には妹も年下のいとこもいるが、どちらも年が離れているうえ、あまり仲が良くない。そのため、3年生の先輩方のように、後輩と良い関係が築けるか不安に思っている。

小学校3年生のころ、縦割り班活動という活動があった。上級生と下級生の縦割りで班をつくり、活動するという取り組みだ。6年生のお姉さんが班長になった。当時の自分は口下手だったので、自分から話しかけることができず、縦割り班活動を苦痛に思っていた。

そんなとき、話しかけてくれたのが班長のお姉さんだった。お姉さんはあまり自分の意見を言い出せない私によく話を振ってくれた。遊びの時間にも私のそばにいて、私にボールを回してくれた。いつしか私は縦割り班活動を待ちわびるようになっていた。

お姉さんはもうとっくに卒業して、すでに連絡も取れなくなっている。それでも先生方のお話で「先輩と呼ばれることになる」「後輩ができる」というフレーズを聞くたびに、お姉さんのことを思い出す。縦割り班活動は、せいぜい年に20回程度しかなかったが、その短い時間の中で、お姉さんは、確かに私との絆を築いていた。

ならば、後輩という時間が小学校よりも増える中学校でなら、私にも同じことができるのではないかと。正直に言って、まだ新しい立場に対する不安はある。それでも、自分から積極的に行動して、後輩とよい関係を築いていこうと思う。



※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成30年6月3日（日）掲載

## 新鮮な山菜 食べてみては

中学生 杉浦 光（14） [3年2組]

フキノトウに始まり、タラノメやタケノコ、ワラビやフキなど、春には実に数多くの山菜が見られる。

今年もフキノトウをフキみそにしたり、タケノコを炊き込んだりしていただいたが、なぜだかこのごろはどこの店でもあまり見かけなくなりました。

私の祖父母は、福島の田舎の方に住んでいる。2人ともまだまだ現役で働いているが、仕事の無い日はよく家庭菜園で野菜を育てたり、山にキノコや山菜を採りに行ったりしている。もちろん本人も食べるのだろうが、量は多くない。余った分を送ってくれるのだ。とても新鮮な上、さまざまな料理に使えるので、いつもおいしくいただいている。

こういった食材は、東京のような都会にいと、だいぶ縁遠い存在になってしまっている。都会のように、科学技術にあふれた便利な世界も悪くはない。けれど、たまには自然が感じられる春の新鮮な山菜を食べてみてはいかがでしょう。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」 平成30年7月2日（月）掲載

## 「真の運動会」の楽しさ実感

中学生 上田 琉颯（14） [3年1組]

運動会でこれまでに感じたことがないくらいの感動と楽しさを味わった。そして運動会は勝ち負けではないと実感した。

これまで運動会ではとにかく勝ちにこだわった。大縄跳びやリレーでも誰かがミスしてもポジティブな声かけもしてやれずいた。

しかし今年は違った。友達と声をかけ合い、助け合うこと、何ごともポジティブに考え、より上を目指すこと。そして何よりも「悔しい」や「楽しい」という感情を普段の生活以上に感じられるのが、本当の運動会だと実感した。

ミスをしたときは「ドンマイ!」、良いプレーだったときは「ナイス!」と、前向きに考えて声かけをするのがクラス全体の雰囲気をも明るくする一番の秘訣だということも学んだ。

惜しくも4点差で表彰台に上ることはできなかった。しかし優勝以上にクラスの友情、絆が感じられた最高の一日を過ごすことができ、とても幸せだった。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成30年7月16日（月）掲載

## 2年後に向け、今できること

中学生 大西 優梅（14） [3年1組]

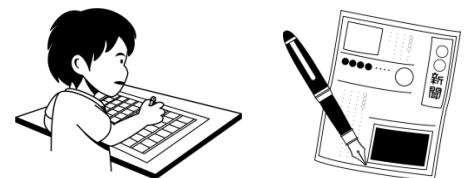
先日、母の知人の米国人のご夫婦が来たので、東京の観光地を案内したり、ご飯を食べたりした。ご夫婦は英語がつかない私にも分かりやすく質問をしてくれ、話すことができた。しかし母が日本の食や文化を説明したり、日本特有の品物やお店について話したりするとき、私は会話に入ることができず、残念だった。

2年後の東京オリンピック・パラリンピックのとき、ボランティアで関わったり観戦に来た外国の方に日本文化の説明や紹介をしたりする機会は作れるはずだ。一人一人が開催国・日本の代表となるので、今回のように他の人に任せていて対話ができないというのは恥ずかしいし、もったいないと思う。

英語の能力をもっと伸ばすとともに、まだ知らない日本文化についても学んで準備したい。今回は自分から相手のことや国について聞くことができなかったのも、次にこのような機会には気になったことは積極的に質問し、お互いの国について知識を深められるようにしたい。

※ 紙面構成の都合により、掲載順ではなく順不同とさせていただきます。

何とぞご了承ください。



### 【お詫びと訂正】

平成30年6月26日発行の校長室通信第2号表紙の発行日の表記が、平成29年度になっていたものがありました。ここに謹んでお詫びを申し上げますとともに、訂正させていただきます。今後、今まで以上に誤植等のないように気を付けてまいりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。